

# 発話の同調現象からみた交感機能

## — 会話分析の立場から —

肖潔 (北海道大学大学院生)

### 1. はじめに

従来、交感機能と言えば、その典型例は主に挨拶であると知られている。挨拶に用いられる言葉は交感発話として扱われている(肖 2019)。しかし、挨拶のように本来的に交感発話として機能する表現のほか、実際の会話の中に生じた交感機能を持つ交感的表現もある。本研究は、後者の交感的表現に着目して、発話の同調現象では交感機能がいかに関与しているのかを明らかにすることを目的とする。

### 2. 先行研究

会話分析の観点では、隣接ペアの第2部分が第1部分が達成しよう行為連鎖の実現に促進することを同調とみなしている(例えば、「誘い」-「受諾」という行為連鎖があり、「誘い」という第1部分に対して、「受諾」という第2部分の実現は同調である)、反対に、第1部分が実現したい行為連鎖を阻む反応は同調しないというように解釈している(Sacks,1987; 高木,2016:149-150)。また、会話参加者は、「質問」という第1部分に示されている期待に同調的な「応答」という第2部分を産出することに強く志向することが指摘されている(Sacks,1987)。要するに、相互行為において、同調的反応が非同調的反応より容易に産出されるという優先性があるということである。

### 3. 分析

本研究は、発話の重なり(オーバーラップ)、重複応答、極性を反転させる言い方、タイプ非一致型応答といった発話現象から、会話参加者が求めている同調性を見極め、Jakobson(1960)の言語伝達行動における六要素とカルペパー&ホー(2020:58-59)の「前景・背景」という概念をもって交感機能を捉える。会話データは主として『日本語日常会話コーパス』CEJC モニター公開版を用いている。本コーパスを利用する要因は、現代日本語の日常会話データが幅広い範囲で扱われているからである。会話データは、コーパスにおけるトランスクリプトを参照したうえで、映像と照らし合わせて再度仔細に転写している<sup>1</sup>。

#### 3.1 発話の重なり(オーバーラップ)

会話参加者が二人の場合、次の話し手が現在の話し手の発話(TCU)が完結可能な点に至らないうちに、順番を取って話しをし始めると発話が重なってしまう。一方、会話参加者が二人または二人以上の場合、現在の話し手が未だTCUの産出の途中であることが明らかな時点で、受け手(聞き手)が発話を開始し、現在の話し手の発話と同調するような反応をし、同時に後続の発話を産出する現象もみられる。前者は、発話の割り込みであり、後者は、「協働的完了・予期的完了」(collaborative completion/anticipatory completion)(Lerner,1996 訳は高木,2016 参照)と呼んでいる。本研究では、主に後者の同調的な重なる現象を論じる。

下記に挙げる例は、受け手が話し手と同調するためにオーバーラップしたものである。このような重なる現象は、主として受け手が話し手の発話を予期し、話し手と共感を形成したいため生じたものである。オーバーラップした部分の発話は常に同様、もしくは類似した文法形式・意味内容を持っている。

#### (1) [K004\_013] (抜粋)

<sup>1</sup> トランスクリプトについて、細部のところを修正している部分がある。

<sup>2</sup> トランスクリプト記号

[ ]	音の重なり	=	発話の密着	(0.0)	沈黙・間合い(秒)	(・)	短い間合い
::	音の引き延ばし	.	語尾の音調が下がっている	?	語尾の音調が上がっている	。。	小さな音量
(huh)	発話中の笑い	(( ))	転写する人のコメント	(D)	言いよどみ	<u>下線</u>	音の強調

((職場の絵本専門店での先輩スタッフ4名と一緒に店に入れる本を選ぶ定例の会議。))

- 01 IC04 これ これ これ入れる?  
02 IC02 [うん.  
03 N10A [ちょっと高い[けどね:  
04 IC04 [これちょっと.  
05 IC02 うん. (0.6)(T(U 虎だな:)).  
06 IC03 いくら?:=  
07 IC04 =あー.  
08 IC01 二[千五百円.  
09 N10A [(U 二[千五百円). (0.2) ちょっと (D テー)  
10 IC03 [あー. 売れ[なそう:.  
11 IC02 [うわー.  
12→ IC04 [ちょっと:]  
13→ N10A [ちょっと:].  
14→ IC02 [ちょっと売れないね=  
15 IC04 =様子見ます[かじゃあ.  
16 N10A [ね.

店長としての IC04 は、ある絵本を選び、「これ入れる？」(01)とみんなに意見を伺っている。しかし、その値段が高いものだと気づいている。ほかの店員も同じことに気づき、12行目と13行目では IC04 と IC02 が残念な気持ちで同時に「ちょっと:」と言い出している。

この「ちょっと」はフィルターであり、語彙の意味がなく、よく会話において「話者の快諾しにくいところがあること」を示している。話者二人のオーバーラップ(12-13)は、ヤーコブソンの言語伝達行動の六要素からいうと、発信者と受信者間の「接触」(contact) (Jakobson, 1960, 以下同様) という要素に焦点を合わせ、「交感的」(phatic) (ibid.) 機能が前景化して働いているものと言える。

### 3.2 重複応答

重複応答は、話し手が第一部分を産出し、TRP となる場所において、受け手が第一部分の発話を(部分的に)重複したうえで第二部分を産出するものである。これは、受け手が話し手の産出した発話に同感した結果でもある。会話参加者が同調した発話を産出することによって、雰囲気や和み、親近感が生じるととらえられる。重複応答は親しい間柄でよくみられる会話パターンである。次の会話例を挙げる。

#### (2) [T013\_013] (抜粋)

((勤務する大学の学生3人と、授業のあと移動しながら公園を散策。花見や成人式、蛍、歌などの話をとりとめなく話す。IC03 と IC02 は同級生で仲がよい。IC04 は学年が上で専攻も異なるが、同じ先生の授業で一緒になる。))

- 01 IC02 (F あ(L の:))(0.2)あまり綺麗(・)に咲いてなかったんですけど:=  
02 IC04 =うん うん.  
03 (・)  
05→ IC03 梅もいいね:=  
06→ IC02 =梅もいい[ね.  
07 IC03 [うーん. 梅もいいだろうな:.  
08 IC02 食べられるしね.  
09 IC04 あー.  
10 IC04 そうなんだ(huhhuhhh).

学生3人が散策しながら花見の話をしている。梅の話をしている時、IC03が「梅もいいね」(05)と発話し、IC02も同様の発話を重複している(06)。そして、IC03は07行目で再び似た意味の発話をしている。IC02はIC03と同じ考えを持っている。二人は共感形成しているととらえられる。このように受け手が話し手の発話に同感したうえで重複し、話し手が再び似た発話をするようなやり取りは、会話の論理面において内容の進展はないが、会話を引き延ばして、

話し手と聞き手の心理的接触が深まっている。これは、ヤーコブソンが述べている「接触」という要素に焦点を合わせ、交感的機能を前景化して果たすものである。

### 3.3 極性を反転させる言い方

高木 (2016:156-161) によれば、極性を反転させるとは、話し手が自分の産出した質問に対して、受け手から否定的な応答が産出されることを予知し、肯定的な応答が得られるように、極性を反転させて質問をやり直すことと述べている。ここでの肯定的な応答とは、話し手と受け手がある物事や事態に対して同一な認識を得たことを指している。本研究では、極性を反転させる言い方は質問に限らず、話者の意見を述べる平叙文においても同じ現象がみられると考えている。会話参加者の認識が同調された原因で、会話がよりスムーズに進むことができる。ゆえに、否定的な応答より、肯定的な応答のほうが優先される。これは、交感機能が働いた一種の会話ストラテジーとしても扱うことができる。以下の会話例がある。

#### (3) [K004\_013] (抜粋)

(職場の絵本専門店での店の先輩スタッフ4名と一緒に店に入れる本を選ぶ定例の会議。)

- 01→ N10A これもったいないね。これ。  
02 IC04 ん?  
03→ N10A もったいないね。これ。  
04 IC03 ちよっと入れる?[じゃあ。  
05 IC04 [やっぱ]でもさ:二千六百円だよね。  
06→ N10A [うーん。]でもたぶん流れないような気がするな。  
07 IC03 [高いよね。  
08 (1.5)  
09 IC04 まあ あそのコーナー——空いてるっちゃ空いてるけどね=  
10 N10A =空いてるけどね。

(3)は、(1)と同様に絵本を選択している場面である。N10Aが入れないともったいない絵本をみんなに勧めている(01, 03)。店長としてのIC04は値段に気になって、「やっぱでもさ:」(05)と言い始めた時、N10Aは店長の言いたいことを予知し、店長の話と同調するために、「うーん。でもたぶん流れないような気がするな。」(06)と発話の極性を反転させている。09~10行目には二度目の同調も現れている。IC03にも似たような発話現象がみられる。ここにおける同調は(1)(2)と異なり、命題内容のやり取りはあるものである。しかし、発話の背後には会話参加者の気持ちを配慮している交感的機能も働いている。いわゆる、「関說的」(referential) (Jakobson, 1960, 以下同様)機能が前景化しているが、話者同士の「接触」に目を離れない交感的機能も背景化していると考えられる。

### 3.4 タイプ非一致型応答

Raymond(2003)によれば、「肯否質問」に対する応答は、「はい・いいえ」などの明示的な肯定・否定応答表現を用いるかどうかによって「タイプ一致型応答」と「タイプ非一致型応答」(訳は高木 2016:169 を参照)がある。会話において、タイプ一致型応答は直接的で、受け手の感情を傷つけたり、会話の雰囲気をも不快にしたりすることがある。ここで議論するのは、会話において、いかにタイプ非一致型応答を利用して婉曲的に応答することによって、会話を円満に終了させるのかの問題である。このような同調表現は間合いや音の引き延ばしといった特徴も含めている。

#### (4) [K004\_013] (抜粋)

(職場の絵本専門店での店の先輩スタッフ4名と一緒に店に入れる本を選ぶ定例の会議。)

- 01 IC04 これ[もでも:売れるかもしれない。  
02 IC02 [ぽつぽつぽつもね。(U すごい).  
03 N10A うん。  
04 IC04 [一冊でいいですか:?  
05 IC03 [うん。。(G まあ)ま)時期だしね。  
06 IC02 うん。[とりあえずね  
07 N10A [はい。  
08 IC02 一冊でね

- 09→ IC04 一冊で[大丈夫?]  
 10→ IC03 [一冊?二冊?]  
 11→ IC04 二冊?。  
 12→ IC02 二冊入れとく?。  
 13 IC04 なんかこれ:二冊いけるような気がするね。  
 14 IC02 うん うーん。  
 15 IC04 じゃ 二冊にしちゃおう。

絵本を選んでいる時、店長としての IC04 は最初「一冊でいいですか」(04)とみんなに聞いて、「うん」のような明示的な肯定的応答を得た後、一冊は足りないと思って、「一冊で大丈夫?」(09)と聞き返している。それに対して、(10~12)行目は「はい・いいえ」という明示的な応答を出しておらず、疑問形で相互に確認し応答している。13行目は疑問形から平叙文に変わるが、「ね」という終助詞を用いて口調を緩和している。それで14行目でようやく「うん うーん」と明示的な応答が出ている。15行目で IC04 は最終的に二冊を決めた。

このように、会話参加者は、話者 IC04 の発話に同調することを考えて会話を進めているとみられる。本を一冊から二冊に変更することも相互に何度も確認して交渉した結果である。タイプ非一致型表現を用いて、明示的に同調しない表現はなるべく避けている。(3)と同様に、論理面における情報のやり取りをする「関說的」(referential)機能は前景化されているが、話者同士の「接触」に配慮している交感的機能はその背後に働いているものとみられる。

#### 4. まとめと今後の課題

本研究は、発話の重なり、重複応答、極性を反転させる言い方、タイプ非一致型応答といった発話の同調現象について分析し、会話における交感的機能を持つ表現の特徴を確認できた。交感的機能が前景化されているものと背景化されているものがそれぞれ存在していると明らかにした。発話の重なりと重複応答の会話現象は、話者同士の接触到焦点を合わせ、交感的機能を前景化しているのに対し、極性を反転させる言い方とタイプ非一致型応答は、論理面において情報のやり取りをする間說的機能を前景化しているが、その背後に「交感的機能」も働いているものである。交感機能を持つ発話では、前者は顕在的なものであるのに対し、後者は潜在的なものと解釈してよいと考えられる。このような会話における交感的表現は、会話の「修復」現象においても存在のか。今後の課題として扱いたい。また、文体、終助詞といった統語的特徴も考慮に入りたいと考えている。

謝辞 本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPM15P2119 の支援を受けたものである。

#### 参考文献

- カルペーパー・ジョナサン/ホー・マイケル (2020). 第3章 情報語用論 新しい語用論の世界——英語からのアプローチ 椎名美智監訳, 加藤重広訳, 研究社, 57-101
- Jakobson, R (1960). Linguistics and Poetics. In :Thomas A. Sebeok(ed.) Style in Language, 350-377, John Wiley and Sons, New York.  
 (邦訳:ロマン・ヤーコブソン (1973). 言語学と詩学 一般言語学 川本茂雄監修, 田村すゞ子・村崎恭子・長嶋善郎・中野直子共訳, みすず書房, 183-221)
- Lerner, G.H (1996). On the "Semi-Permeable" Character of Grammatical Units in Conversation: Conditional Entry into the Turn Space of Another Speaker. In E.Ochs, E.A. Schegloff and S.A. Thompson (eds.) *Interaction and Grammar*, pp.238-276. Cambridge: Cambridge University Press.
- Raymond, G (2003). Grammar and Social Organization: Yes/No Interrogatives and the Structure of Responding. *American Sociological Review* 68: pp.939-967.
- Sacks, H (1987). On the Preferences for Agreement and Contiguity in Sequences in Conversation. In Button, Graham, J. R. E. Lee (eds.) *Talk and Social Organisation*, pp.54-69. Clevedon: Multilingual Matters.
- 肖 潔 (2019). あいさつとあいさつ表現の判断基準及び分類に関する考察—日本語の視点をもとに— 研究論集 19, 233-243, 北海道大学大学院文学院.
- 高木智世 (2016). 連鎖の組織と優先組織 高木智世・細田由利・森田笑 (編) 会話分析の基礎 ひつじ書房 pp.93-182. [使用データ]
- 小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉 『日本語日常会話コーパス』モニター版の設計・評価・予備的分析 『国立国語研究所論集』 18, pp.17-33, 2020.1.